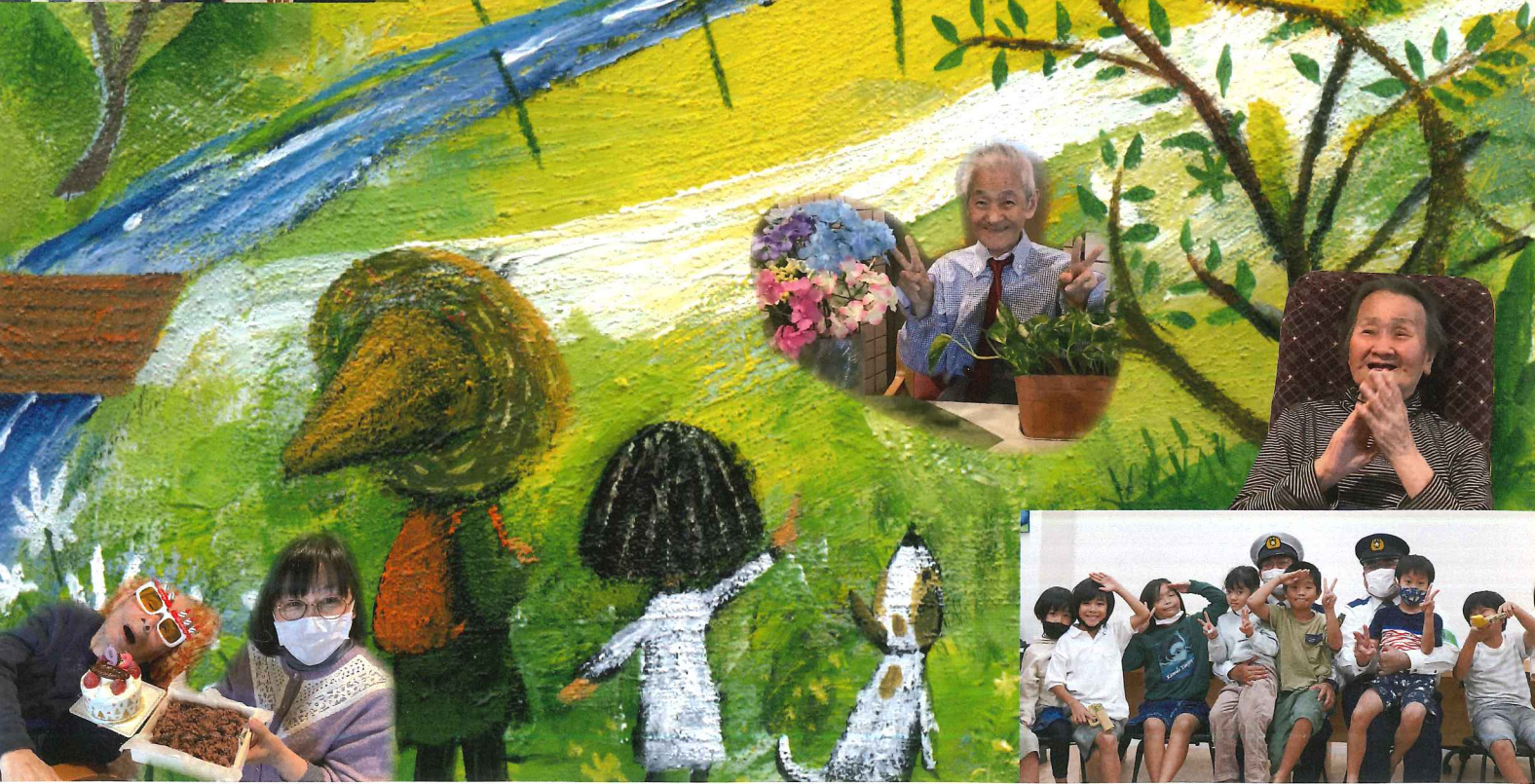


あ、た、か、い、が、 い、い、ね

わたしは山にむかって
目をあげる
わが助けは、
どこから来るであろうか
わが助けは、
天と地を造られた主からくる



四季の森小学校放課後キッズクラブ



2つの 元気印



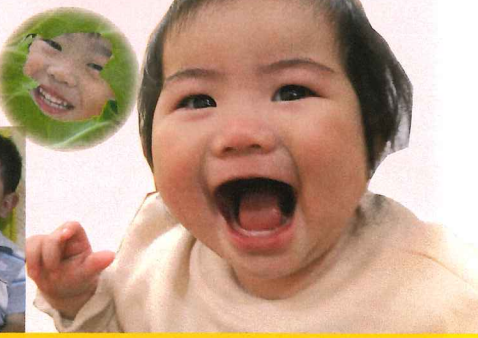
シャローム 三育保育園



楽しいは創るもの!

子どもが1日に笑う回数は大人の約30倍。なんでもないような事でもワイワイ、キャッキャと楽しそう。

“楽しい”は明日を生きるちから。“楽しい”をもっともっと創ろう!



第24号 あ、た、か、い、が、い、い、ね

2023年3月1日

特別養護老人ホーム シャローム横浜
施設長 高原信夫
Tel.045-922-7333 Fax.045-922-7334

デイサービスセンター シャローム横浜
Tel.045-922-7337 Fax.045-922-7338

ケアマネジメント シャローム横浜
Tel.045-922-7337 Fax.045-922-7338

食事サービス
Tel.045-922-7339 Fax.045-922-7336

横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業

四季の森小学校 放課後キッズクラブ
Tel.045-951-7564

ケアハウス シャローム桜山
ハウス長 村本英邦
Tel.045-922-7330 Fax.045-922-9648

横浜市 ひかりが丘 地域ケアプラザ
所長 滝沢泰彦

・通所介護部門・居宅介護支援事業
・地域包括支援センター・地域交流事業
・生活支援体制整備事業
Tel.045-953-6890 Fax.045-958-1140

高齢者グループホーム
シャロームミルトスの木(上白根)
ホーム長 渡部紀久
Tel.045-954-5960 Fax.045-954-5961

高齢者グループホーム
シャロームミルトスの木(鶴ヶ峰本町)
ホーム長 渡部紀久
Tel.045-958-0221 Fax.045-958-0220

保育事業
シャローム三育保育園 園長 村上 渉
Tel.045-390-3193 Fax.045-390-3192

沖縄 障がい児通所支援 ベーテルの夢
責任者 福地 十七重
Tel.098-988-0680 Fax.098-988-0681

沖縄 障がい児通所支援 ベーテルの夢Ⅱ
責任者 福地 泉
Tel.098-917-4181 Fax.098-917-4182

メールアドレス
シャローム横浜:shalom-yokohama@adventist-welfare.jp
シャローム桜山:sakurayama@adventist-welfare.jp
ひかりが丘CP:hikarigaoka-careplaza@adventist-welfare.jp
シャローム三育保育園:s-san-iku@adventist-welfare.jp
ベーテルの夢:bethel@adventist-welfare.jp
ベーテルの夢Ⅱ:bethel2@adventist-welfare.jp

ホームページ
アドベンチスト福祉会 <http://www.adventist-welfare.jp/>



編集 坂本 晋一
イラスト 長嶋 洋一
制作 ティム有限公司

思いやりをもって

今年アドベンチスト福祉会は24年目を迎えました。これまで多くの皆様のご理解・ご支援のおかげで今日があります。ことに深く感謝申し上げます。

先日、平成11年10月に発行された『あつたかいがいのね』第1号を見る機会がありました。そこにはシャローム横浜が地域の皆様の期待と支えによってこの地に誕生したこと、笑顔と信頼をもって一緒に歩いてくださった特養やケアハウスのご利用者の皆様、立ち上げの苦労を共にしていただいた職員や支えてくださった多くのボランティアや地域の皆様など、本当に沢山の皆様を支えられて最初の一年を迎えられたことの感謝がつづられていました。

このシャローム横浜は、まさに多くの皆様の支えにより活動を続けてまいりました。しかしながら、新型コロナが発生してから3年間は、これまでの歩みの中で最も人との関わりが制限されてきた期間



シャローム横浜施設長
高原 信夫

いま、世界は不安の中で希望を見出すのが難しい状況にあります。人類の希望はいったいどこにあるのでしょうか。どこに問えばそれが分かるのでしょうか。多くの人がその答えを求めています。

本来、福祉という言葉には幸せと希望を共に味わうという意味があります。従って、社会福祉の動きは、状況を改善するだけの働きではありません。福祉には達すべき目的と、果たすべき役割があります。そして、それらに意味を与え、推進力となるのが希望です。

アドベンチスト福祉会では、「わが助けは、天と地を造られた主からくる」との御言葉を信じて、これからも使命を全うして参りたいと思います。

過ぎた年のご支援に感謝すると共に、皆様の上に天来の希望と豊かな祝福を祈念致します。

ともなりました。令和元年の年末にインフルエンザ感染蔓延から始まり、その後の新型コロナ流行によって面会やボランティアの出入り、別フロアのご利用者同士の交流も制限やむなしとなりました。これによって、この3年間に所された利用者ご家族は、生活の場である3・4階フロアに一度も足を踏み入れることができないという異常事態にもなっていました。

また、陽性者が発生した場合、人との接触を防ぐため、保健所の指導の下に新たな陽性者が出なくなるまでご利用者を居室で過ごして頂く対策をとらざるを得ませんでした。その結果、こうした対策がやむを言えないとはいえず、ご利用者の表情を乏しくし、食欲がなくなるなど、生きる意欲さえ奪っていくように感じたのは私だけでしょうか。

当法人は「あつたかいがいのね」を標語に掲げています。人と人との繋がりが自然と笑顔を生み、そしてそこからお互いを思いやるぬくもりが生まれてくると信じます。そのぬくもりを通じて多くの皆様が生きがいを見出し、そしてますますこの法人が笑顔溢れる場所となっていくことを心より願っています。



(2021年4月1日から2022年3月31日)

事業活動計算書 資金収支計算書 貸借対照表

サービス活動増減の部

収益	サービス活動収益計①	1,253,747,630
費用	サービス活動費用計②	1,284,054,998
	サービス活動増減差額③=①-②	-30,307,368

サービス活動外増減の部

収益	借入金利息補助金収益	0
	受取利息配当金収益	4,507
	その他のサービス活動外収益	12,867,143
	サービス活動外収益計④	12,871,650
費用	サービス活動外費用計⑤	10,558,259
	サービス活動外増減差額⑥=④-⑤	2,313,391
	経常増減差額⑦=③+⑥	-27,993,977

特別増減の部

収益	特別収益計⑧	1,050,000
費用	特別費用計⑨	280,042
	特別増減差額⑩=⑧-⑨	769,958
	当期活動増減差額⑪=⑦+⑩	-27,224,019

繰越活動増減差額の部

前期末繰越活動増減差額⑫	116,189,182
当期末繰越活動増減差額⑬=⑫+⑪	88,965,163
基本金取崩額⑭	0
その他の積立金取崩額⑮	0
その他の積立金積立額⑯	0
次期繰越活動増減差額⑰=⑬+⑭+⑮+⑯	88,965,163

事業活動による収支

収入	事業活動収入計①	1,266,619,280
支出	事業活動支出計②	1,262,228,150
	事業活動資金収支差額③=①-②	4,391,130

施設整備等による収支

収入	施設整備等収入計④	1,050,000
支出	施設整備等支出計⑤	11,604,853
	施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	-10,554,853

その他の活動による収支

収入	その他の活動収入計⑦	37,601,200
支出	その他の活動支出計⑧	43,641,998
	その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	-6,040,798
	当期資金収支差額合計⑩=③+⑥+⑨	-12,204,521
	前期末支払資金残高⑪	289,603,201
	当期末支払資金残高⑫=⑪+⑩	277,398,680

資産の部

流動資産	338,751,483
固定資産	2,468,806,208
基本財産	1,920,392,302
その他の固定資産	548,413,906
資産の部合計	2,807,557,691

負債の部

流動負債	108,328,566
固定負債	396,821,481
負債の部合計	505,150,047

純資産の部

基本金	1,346,942,366
国庫補助金等特別積立金	797,500,115
その他の積立金	109,000,000
次期繰越活動収支差額(うち当期活動収支差額)	888,965,163
純資産の部合計	2,302,407,644
負債及び純資産の部合計	2,807,557,691

入居者数 (2022年12月1日現在)

シャローム横浜				シャローム桜山			
	男	女	計		男	女	計
人数	22	82	104	人数	11	39	50
平均年齢	85.2	86.9	86.5	平均年齢	84.9	86.3	85.2

希望をもって



理事長
村本 英邦

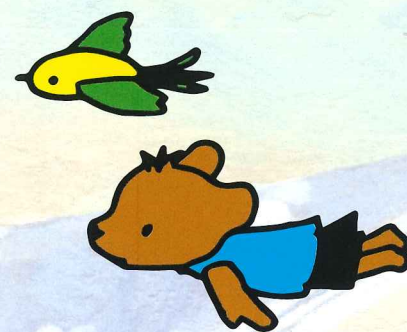
皆様の祈りに支えられ、今年も一年間の活動報告ができます。ことを感謝いたします。

この「あつたかいがいのね」は毎年この時季に発行されていますが、過去の報告に目を通しますと、その年に取り組んだ話題を取り上げてきたことが分かります。

数々のイベントや研修会、入居者様やご家族、ボランティアの皆様との座談会や職員が全国大会で発表した研究報告等もありました。新規事業の紹介もその都度行なって参りました。

確かにコロナ禍の影響を受けてからは、少し活動の勢いは落ちていますが、常に明るい気持ちでご利用者に寄り添う職員の思いは、開設当時と変わることなく受け継がれています。

表紙に載せた聖書の御言葉は、私たちが謙虚に創造主であられる神様に心から頼るとき、たとえどのような困難に直面しようとも恐れることなく希望を持って進むことが出来るという希望に満ちています。



ふたりが良い

ひとりよりふたりが良い。

倒れれば、そのひとりがその友を助け起こす。

(コヘレトの言葉 4章9より抜粋)

24年間たくさん友に助けられました

これからも助け助けられ歩んでいきます



職員数		職員資格保有者	
特養ケアハウス	(内パートナ- 74名)	社会福祉施設長	3名
ひかりが丘地域ケアプラザ	(内パートナ- 25名)	社会福祉士	10名
四季の森小学校放課後キッズクラブ	(内パートナ- 11名)	社会福祉士主事	14名
シャロームミルトスの木(上白根)	(内パートナ- 9名)	介護福祉士	90名
シャロームミルトスの木(下白根)	(内パートナ- 9名)	主任介護支援専門員	5名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	介護支援専門員	35名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	ヘルパー2級	56名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	ヘルパー1級	5名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	精神保健福祉士	2名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	嘱託医	2名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	看護師	19名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	保健師	1名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	理学療法士	2名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	作業療法士	1名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	柔道整復師	2名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	管理栄養士	4名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	栄養士	10名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	調理師	18名
シャロームミルトスの木(峰本町)	(内パートナ- 9名)	保育士	37名
合計	(内パートナ- 150名)		291名



大先輩方たちから見えてくるもの

1997年にアドベンチスト福祉会が設立して24年

法人で今も活躍されている大先輩3人に
今までの歩みの中で気づいた事、
コロナ禍でも失ってはいけない事、
法人の心構えなど、意見を伺いました

現役で活躍するレジエントたち

対談

アドベンチスト福祉会 評議員 中島 肇
グループホーム 看護師 小林 董江
ケアプラザ 職員 長谷川 晴雄

司会

アドベンチスト福祉会 チャプレン 上前 至

ありがとう
ござります



チャプレンにぜひ来ていただいて、皆と交わってくださればと思います。

挨拶はいっぱいしてほしい。挨拶で、人との交流が生まれます。

何でも自分からまずやろうと、今日は何をしようかと、一生懸命に考えながら仕事をしています。

あたたかい言葉はもちろんですが、ふれ合う事も大切ですね。

ボランティアをしている人は、孤独にはならない。とても大きなことです。

「シャロームデイ・ボランティア感謝の集い」はぜひ復活することを願っています。

中島 肇 89歳

小林 董江 84歳

長谷川 晴雄 84歳



今に至る経緯

上前 今日はお集まりいただきありがとうございます。この中で、私は73歳。まだまだ若造です。(笑)
まず皆さんが当法人と関わるきっかけは？
長谷川 町内会長だった70代のころ、ケアプラザで清掃職員を募集していました。ためもとて応募したところ採用され、現在も働いています。病気などで休んだことはなく、生活にはりがてで、感謝しています。

中嶋 60歳で定年(小学校)、川崎市で再就職して市民アカデミーなどの仕事を5年しました。その後シャローム開設の頃、宿直の仕事をお願いされたのが始まりです。それから送迎の運転手、俳句教室や、シャローム・ギャラリーの展示などを頼まれました。

当初、宿直は大変で、夜中に入居者が誤って非常ベルを押す度に、玄関の施錠解錠、消防や警察の対応をしましたが、夜間の救急搬送時は玄関の解錠や救急車対応がありました。70歳まで主に非常勤として働きました。

その後法人から理事を依頼され、今は評議員やボランティアをしています。

中嶋 交流がないのはさみしいですね。コロナで難しいとは思いますが、アイデアを出しあって地域や、ボランティアの方々との交流を計っていくことは、これから一番大事なことだと思います。

コロナ前まで毎年行われていた「シャロームデイ・ボランティア感謝の集い」はぜひ復活することを願っています。これだけ支えてくれる方々が多いのだから、法人の理念や「あたたかいね」の精神をこれからも大事にしたい。

長谷川 これからも、よろしく願います。

上前 ありがとうございます。時代や環境もどんどん変化していく中で、法人の理念を見失わず、「あたたかいね」を実践する職員・法人でありたいと願います。

人と人の間に橋をかけ続けることこそが法人の使命ですね



上前 至

上前 ありがとうございます。中島先生には現在シャロームで働いている外国人の日本語ボランティア講師や、生活支援をしていただいています。
小林 平成10年勤めていた病院を定年退職し、その後、看護教員の資格を取り、いくつかの学校で講師をしていました。有料老人ホームの副施設長やヘルパーの講師などとしたことがあります。
その頃、知人から「私の働いている施設で手伝って」と声をかけられ、シャロームに16年位前から働き始めました。それからしばらくが丘地域ケアプラザ、その後上白根と鶴ヶ峰本町の2つのグループホームミルトスの木で看護師をしています。その他、介護保険制度の導入時から、認定審査委員をしています。

今だから見えてきた事

上前 仕事を通して新たに見えてきた事はありますか？
小林 得た知識や情報、特に認知症の入居者の方から得るものが多いです。自分自身、すごく優しくなれます。

6、7年前、主人が認知症になり、初めは「どうして？」と思い悩みました。でもすぐに得

た経験から病院に検査を依頼し、対応がスムーズにでき、介護をしながら働くことができた。いまは一人暮らしで、グループホームで働いて、職員や入居者とかかわれることはありがたいです。
毎日長男からモーニングコールが来ています。面倒になって一回返事しなかったら大騒ぎになってしまってたので、反省しています。(笑)
コロナ禍で、マラソンに行けないので、バスケットを見に行ったりしています。
上前 毎年マラソン大会に参加されていたのですか？
小林 厚木の基地の中のマラソンなども参加しました。
中嶋 小林さんと働いていた時、「今夜これからホノルルマラソンに出る」と言ってきたら、すぐに帰ってくるんですよ。「せっかくハワイまで行って、遊ばないの？」と聞いても、「走るのが目的だから」と。みんなびっくりしてました。(笑)
小林 そうでした？
上前 すごくですねー。(笑) 長谷川さんは何かありますか？
長谷川 そうですね、挨拶ですね。挨拶は大切です。いっぱいしてほしい。コロナのせい

もあり挨拶をすることが少なく、なっている気がしますが、知らん顔ではなく挨拶で、人との交流が生まれます。
小林 私も前はそう感じていました。でも、自分からしていけば、若い人も自然に挨拶するようになるのではと思っています。
法人の「あたたかいね」というモットーがありますよね。この言葉はとても素晴らしいと思います。
利用者やソファに座って手をつないだ時、「あなたの手はあったかいね」といわれたら、「あたたかいですわ」と返事します。
小林 厚木の基地の中、マラソンなども参加しました。
上前 触れあふことは大切ですね。中嶋先生は何かありますか？
中嶋 ケアプラザが開設したころ、日本語の読み書きを教えたり、グループホームで読み聞かせのボランティアを行っていました。
なぜボランティアをするのかと聞かれることがあります。「情けは人の為ならず」です。人のために何かすると、自分に返ってくるという意味ですが、その通りです。20年間シャローム・ギャラリーで画家や写真家などの展示のお手伝いをして、つな

がり広がりました。今の自分にとって大きな宝物になっている。人間として成長し、交流ができて、支えてもらっている。ありがたいことです。
小林 素敵ですね！
上前 それがボランティアの良さですね。いつか自分に戻ってきますね。
中嶋 何にもないでいたら、早くぼけちゃいますよ。
長谷川 この歳で、みんなと一緒に仕事できるという事は、うれしく感謝しています。
小林 それでいつも優しい気持ちでいられるのですから。
長谷川 自分が何でもやらなきゃというわけでもないけど、自分からまずやろうと、今日は何をしようかと、一生懸命に考えながら仕事をしています。
小林 今グループホームにも、ケアプラザで働いていた時の利用者さんが何人も移られてきます。「あら、どうしてたの、元気？」と声をかけてくださり本当にうれしくなります。
上前 交流はとても大事ですね。元気であるためには、必要なことですね。

中嶋 だからボランティアをしている人は、孤独にはならないですよ。これはとても大きなことです。ボランティアをする事で色々な人に声をかけてもらい、逆に助けられています。
上前 今ひらめきました。皆さんが元気なのは、孤独じゃない。人との交わりを持っている。それが健康の秘訣ですね！
今本当に孤独死が多い。それは交わりが途切れているからですね。
小林 だからわたしはありがたい。感謝です。
中嶋 元気の秘訣は孤独じゃないことですね。

これからの法人にアドバイス

上前 では最後に、何か法人に対し希望・要望とかありますか？
小林 以前は、チャプレンが時々グループホームに来て、お話を相談に乗ったり、お祈りしてくださったりしていました。またぜひ来ていただけて、皆と交わってくださいねと思います。もう少し、法人の理念「いのちを愛し、いのちを敬い、いのちを仕える」やモットーの「あたたかいね」など、そうした特徴をもっと出したいのではないかと思っています。

上前 確かにコロナでいけてませんね。申し訳ございません。機会を作っていきます。

おきなわから

コロナに負けない 培った心

たくさんの力に支えられて
成長していきました

沖縄 障がい児通所支援 ベーテルの夢



コロナの残した爪痕は、子どもの貧困問題を深刻化させ、その居場所も奪いました。計画が形になることはなく、先のことが見え、今を生きていることで精いっぱい毎日。子ども達は自分のおやつを持ち帰り、家にいる兄弟に分け与える心が芽生えました。その様な中、地域や県外からの穏やかな関わりを受け、「あったかい」繋がりを感じました。学校へ通えない子が増え、学校や家庭へ出向き支援する「保育所等訪問支援」というサービスのニーズに、その事業に取り組みました。誰かの支えがあり一人の力が何倍にもなる奇跡。それを感じた一年です。全て神様の計画がなされるよう日々祈りつつ支援に携わっています。



2022年度は健康な心身(からだ)作りを目指し、土に触れる野外体験を中心に活動しました。自然の中にいると不思議に子どもたちの健康が回復し、笑顔が生まれ、生き生きとした言葉が行き交うようになります。それはわたしたちの生命が神祕であることを思わされる瞬間です。このような野外体験は、ありのままの自分を受け入れるきっかけになり、そのときに湧き起こる安心感や自己肯定感は、子どもたちの心に「安心」という基地を築く力になりました。

また、室内の活動を通して、職員は子どもたちの「こころの声」を通訳する役割を担い、「感情の育ち」を支えてきました。この関係性の中で、この



コロナに負けない 新たな試み

今、出来ることをやってみました
沢山の笑顔が生まれました



特養3階 (特別介護棟)

特養3階では、コロナ禍でシャロームデイなど大きな行事が出来ない代わりに、フロアでできる工作やおやつづくり、デザートバイキングやケンタッキークッキングや、焼き芋など、様々なメニューをご用意して楽しんでいただきます。中でもおやつレクは大好評で皆様の笑顔が溢れていました。



「認知症対応型通所介護(通称ひまわり)」はいろいろなレクリエーションを行ってまいりました。2022年は、ご利用者それぞれの得意なこと・好きだったことをもう一度、レクリエーションの中で様々なことに挑戦しました。大阪出身の方とはたき焼きを、長野出身の方とはおやき作り、元農家の方々は中心に野菜の栽培をし、ガーデニングが趣味の方とは花を植え、編み物が得意だった方に編み方を教わりながら、職員も編み物に挑戦しました。

他にもいろいろなことに挑戦できた1年でしたが、どのレクリエーションも、ご利用者と過ごす時間や、送迎の際に家族と話をした際にアイデアをもらい、皆で企画し実現に結びついたものばかりです。そうやって、皆さんに支えられながら、これからもご利用者と職員が楽しい時間を過ごせるひまわりを目指します。



ひまわり

